

【2 社会減対策】

(4) 交流の拡大と移住・定住の促進

富士山静岡空港への新幹線新駅実現に向けた取組

(交通基盤部)

1 要旨

富士山静岡空港が、国の災害応急活動を展開する「大規模な広域防災拠点」として示されるとともに、将来の首都圏の航空需要の一部を担う空港として示される等、その重要性が国家的見地からも認識されている。

こうした状況を踏まえ、県としては、国土強靱化や富士山静岡空港へのアクセス強化に寄与する新幹線新駅について、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせた供用開始を目指し、全庁を挙げて、戦略的かつ計画的に新駅の実現に向けた取組を推進していく。

2 現状と課題

J R 東海は、平成 12 年の文書以降、駅間距離が短くダイヤ編成上支障になる新駅の設置は不可能という姿勢を現在まで変えていない。

県としては、このような状況において、J R 東海と具体的な協議ができる環境づくりを引き続き進めていくとともに、県独自に新駅及び関連施設の検討を進め、今後の協議に必要な基礎資料を作成するため、平成 26 年 9 月補正予算より新駅関連調査費を計上し検討を進めている。

3 平成 27 年度の事業内容

(単位：千円)

区 分	内 容	H27 当初
新駅の技術検討に係る調査	新駅の技術検討に係る周辺の平面測量及び地質調査等	11,300
有識者による技術検討委員会の開催と資料作成	新駅の構造等における技術検討用資料の作成と有識者による技術検討委員会の開催	8,700
計		20,000

※H26 調査費の取組 (8,000 千円)

空港と新駅を結ぶ連絡通路及び駅前広場における位置や構造等の概略検討